

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201427		
法人名	社会福祉法人長崎友愛会		
事業所名	グループホームゆうあいホームさわやか		
所在地	長崎県佐世保市瀬戸越2丁目1788		
自己評価作成日	令和 3年 1月 20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年にはコロナウイルスの影響で事業所が力を入れている地域や外部との交流がなかなか実行することが難しい一年となりました。その中で運営推進会議は書面会議を行い、繋がりを絶たないよう努めました。また、感染症予防や利用者様の健康管理に関しては協力医と密に連携をとり努めています。外出支援などが出来ない中、ホーム内行事やレクリエーションの充実などに力を入れ、利用者様にとって生活しやすい環境づくりが出来るよう日々努力しています。さわやかは1ユニットなので職員と利用者様が触れ合う時間が多く、しっかりとコミュニケーションが取れており、さわやかの理念である【さわやかな笑い声が溢れる優しい介護】を念頭に置いて日々、努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2年前にホームの経営を当法人が引き継ぎ、現ホーム長が職員や入居者の対応に苦勞した経験を持つことからホーム長の周囲に対する心配りが非常に行き届いており、職員への役割分担や権限委譲にも積極的に取り組み、職員それぞれが責任感を強く持ち介護を実践することに繋がっている。職員の責任感はチームケアの実現に活かされており、入居者とのコミュニケーション能力も高くホーム内は和気あいあいとした笑顔溢れる空間となっている。職員間の協力体制を構築し、職員にとって働きやすい環境を整えることで職員は生き生きとした姿で入居者支援に取り組むことができ、入居者一人ひとりへの細やかな配慮に繋がっている。また、ホーム近隣は交通の便も良く、家族も立ち寄りやすい環境であるほか、法人内には多種の事業所があり、事業所間で相互にバックアップできる体制を整えており、家族にとって安心感を持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ゆうあいホームさわやか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には理事長や管理者が理念について説明している。新人研修時にも再度説明している。ホームとしての誇りや自信を持ってもらうために、毎朝の朝礼時に理念の唱和を行っている。	ホーム理念は一昨年に経営を引き継ぐ際、あらためて全職員で話し合い作成している。理念はホーム内に掲示するとともに、ホーム長がホーム会議時及び随時面談し、理念に込めた思いを職員に伝えている。職員は入居者に接する際、理念に沿った支援を実践するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、考えているが コロナの影響で実地出来てない。模索中	今年度は地域の清掃活動、夏祭り等各種行事への参加、市より受託した地域住民向け介護教室の開催、長崎国際大学職場実習の受け入れを予定していたが、コロナ禍により中止した。現在、次年度に向けどのように地域との繋がりを確保できるかを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で実地出来てない。模索中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で実地出来てない。模索中	運営推進会議は民生委員1名、近隣グループホーム職員1名、地域包括支援センター職員、入居者代表1名により構成し開催していたが、現在はコロナ禍の影響により書面会議となっている。ホームでは書面会議であっても各メンバーからの意見を汲み取れるよう意見欄を設け、具体的に意見を把握するよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響で実地出来てない。模索中	市への各種書類提出については必要最小限の書類以外はコロナ禍により郵送となり、直接窓口へ訪問する機会は減少している。介護教室の受託など市と連携した取り組みは次年度も継続し実施することを予定している。地域包括支援センターからは困難事例の情報提供もあり、法人本部と適宜調整し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の不安な様子が見られないか、みられた場合は付き添うなどして抑制をしないことを職員がチームとして周知徹底している。	夜間のみセンサーマットを使用する入居者について、使用方法を家族に説明し同意を得ている。同意書についてはセンサーマットが身体拘束に該当するのか母体法人経由で市へ問い合わせ、書面は不要との回答を得ている。法人内に設置する身体拘束防止委員会ではDVD等を用いた勉強会も行っており、3か月毎に開催した委員会の実施状況は議事録として残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するアンケートを法人内で実施しており、その結果を職員間で共有し虐待に関する事は、注意できる環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、他の職員にも伝達研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により説明を行い、同意のもとに入居して頂いている。医療が必要になった場合などもせつめいしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に近況報告や意見・要望を伺うようにして、サービスの向上に努めている。	意思表示をすることが困難な入居者の思いについて、職員は支援時の入居者の態度や表情により汲み取り判断するとともに、同僚職員と相談し想像力を駆使しながら支援に取り組んでいる。入居者・家族の意見は申し送りノート・個人記録・業務日誌に記載し、職員間で共有している。	ホームでの入居者の活動内容を家族に知らせることは家族の意見を収集する手段の一つとなり、それと同時に安心感にも繋がるものと思われる。今後、ホーム便りなどの具体的活用を検討することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の時に意見や提案を話し合い	法人本部での全体会議の中で協議した事項について、ホーム会議を通じて職員全体で共有を図っている。職員からの提案は法人本部での全体会議に随時諮ることで運営に反映しており、新型コロナウイルス対策のために準備している医療用ガウンの使用方法について職員の要望を受け、効率良く分かるようDVDを配布するなど具体的に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により自己評価および自己の課題を整理し、管理職との面談し職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は施設内で一カ月ごと研修を行って介護レベルの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークにより、情報交換や活動の取り組みなどを通じて質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で不安や要望などがないか会話などを傾聴し、チームとして情報を共有している。また 利用者同士の会話も傾聴するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居した翌日には様子を家族に電話連絡している。面会時や個々に生活歴を聞き取りを行い、ご家族の思いをくみ取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報を基に入居していただけるかの判断を行っている。入居が困難な場合は、他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として調理や家事や知恵を職員が教わり、共同作業を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向に応じられるよう、家族と職員が相談しながら、満足感がえられるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の施設はコロナの影響で実地出来てないが馴染みの場所などはドライブ支援している。	入居者にとっての馴染みの場所や関係先について、職員は入居者との会話や家族との情報交換の中で把握し、ケース記録に残している。また、把握した入居者の情報はケアカンファレンスで共有し、介護計画見直し時の検討材料として活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を食事やドライブなどのメンバーに配慮して良好な関係を保っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居した場合、家族の許可を得て入居先に訪問し、交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを職員間で共有し、実現に向けて家族の協力も得ながら取り組んでいる。	意思表示をすることが困難な入居者の思いについて、職員は家族からの情報や入居者との日常の会話、日々の観察等により推察している。把握した情報は第三者が見ても理解できるよう専門用語を使用しない記録を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や電話連絡で、家族や利用者へ生活歴などを聞き、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者の状態を記録に残し、毎朝の申し送りで、報告している。状況に応じて主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族に意見や要望を聞き、月の会議で意見を聞き、ケアプランを作成している。	入居者毎の担当職員がモニタリングを行い、在籍職員によるケアカンファレンスを経て介護計画を見直している。目標とサービス内容を関連付けて番号を割り振ることで、支援時に職員が分かりやすい工夫している。入居者及び家族、担当者は常日頃からコミュニケーションを図り、介護計画の見直し時には要望や意見が述べやすいよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態・変化を記録に残し職員間で情報を共有して介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の思いを聞き取り、既存に捉われないように、柔軟な姿勢でサービスの向上に日々取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ影響で地域との交流が出来ないが、地域にドライブ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は近くの診療所で緊急時はすぐに受診できる体制である。身体状況によって往診が必要な場合は家族に連絡し、受診している。	ホームには月に4日ホーム提携医による訪問診療があり、入居者は定期的に診察を受けることができる。専門医などへの受診については職員が個人記録等を持参し同行支援を行っている。診察の結果や入居者の身体状況に応じて家族にも連絡することで適切な医療に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護と利用者の状態を共有し相談し日々の体調の変化を連携を図っている。夜間の緊急時には看護師に連絡し、相談する体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームより本人の情報を提供している。入院中は面会し状態を確認している。病院とは医療連携室と連絡を取り早期退院へと努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族に対してホームとして出来る事、出来ない事を十分説明し同意を得ている。実際重度化した場合に再度家族・ドクターと話し合い方針を統一しより良い方針に努めている。	入居時に看取りの指針に基づきホームでできること、できないことを家族へ説明し同意を得ており、看取り期が迫った時点で再度家族の意向を確認している。医療行為が発生した時点で退去となるが、家族の意向を尊重し、退去後も法人内の各事業所と連携するなどより良い支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命緊急研修に参加している。緊急時の対応に備えたAEDの場所や使用法を把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回の防火・避難訓練を実地し、消火訓練や避難誘導の確認をしている。消火訓練は利用者も参加し訓練を実地している。	ホームでは入居者・職員・消防署・消防設備点検業者の立ち会いのもと、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施し、実施した内容及び反省点を記録に残している。現在はコロナ禍の影響で消防署等の立ち会いでの訓練は困難な状況である。ホーム内にはAEDを設置し、急変時にも対応できるよう備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し誇りやプライバシーを損なわないように配慮し対応している。	個人情報記録したメモ類はシュレッダーにより破棄しており、個人情報の保護に対する誓約書についても職員に提出してもらっている。職員は入居者の居室へ入室する際ノックと声掛けを行い、排泄・入浴等の場面では本人の羞恥心やプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話のなかで希望を傾聴している。～しませんかと言葉かけを行い、自己決定できるように話を進めて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に無理強いせず、その方のペースに合わせた生活をしている。業務ではなく、職員がその時々に合わせて対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に合ったおしゃれをして好みの服を選んで着てもらっている、職員は衣替えを行い、季節に応じた衣類を準備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは利用者と職員と一緒にやっている。食が進まない人への言葉掛けもやっている。	献立は料理担当職員がその日の材料を見て調理しており、入居者毎にその方の咀嚼力に合わせて形態を調整している。嗜好・アレルギーについては入居時に把握し、調理場に掲示して代替食を提供している。ホームでは手づくりの料理にこだわり、温かみのある家庭的な食事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は食べやすいように、その方に合っているかどうかを見極めながら提供している。食事・水分・排便チェック、毎月の体重測定は全利用者を対象としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉かけをし、介助が必要な利用者は職員が介助している。また、義歯装着者は毎日夕食後ポリドントを実地している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、パットをしている利用者に対しては、三時間置きにトイレに行くように言葉かけをしてトイレ誘導をしている。夜間、自分で排泄出来るようにポータブルトイレを設置している。	職員は入居者それぞれの身体レベルに応じてトイレで排泄できるよう適宜誘導を行っている。尿取りパット類の使用状況について毎月のホーム会議時に検討している。失禁時の対応については、本人の羞恥心に配慮しさりげない声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活で運動量・水分量を増やしたり、主治医や腹部マッサージをして、なるべく自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴で週二回は入浴できるようにしている。利用者の状態に応じて支援している。湯の温度や脱衣所と浴室の温度調節に留意している。	ホームでは週2回月曜から土曜までの間で入浴日を設け、入浴の拒否があった場合は翌日に入浴できるよう支援している。入浴支援を行う際、重度の方以外は基本的にマンツーマンで対応している。皮膚疾患がある方への対応について入浴順の考慮や専用タオルを準備するほか、特に冬場はヒートショックへの対応に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活で活動を充実させることにより、夜間の安眠につなげている。本人のペースで居室やソファで過ごしたり、横になって休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬は個別に包装にしている。朝昼夕と日にちを毎にケースに分けている。服薬援助には細心の注意を払い、飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から本人の趣味や日課を継続できる環境をつくっている。また、次分けの手伝いや、好きな食事を聞き取りを行い、手作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望に合わせた外出、家族からの情報による外出を行っている。また、急ぎな要望の外出についても、即時に対応できる態勢を整えている。	現在、コロナ禍の影響でなかなか外出することが難しいが、車中から外の風景を眺められるようドライブに出掛けることで入居者の気分転換を図っている。また、入居者のストレス解消を兼ね、好天時にはホームに設置しているベンチでお茶会を行ったり、ホーム周囲を散歩し日光浴できる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理している利用者がある。管理に関しては入居時に家族と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも手紙や電話をしている。また、伝言を頼まれたときは家族へ連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には所々にソファを置き、日当たりが良く、外の景色も見られるよう配置している。季節ごとにイベントを行い季節感を取り入れる工夫を行っている。	共用空間は職員による清掃のほか、週2回メンテナンス担当者が手すりなど要所をアルコール消毒することでホームの隅々まで清掃が行き届き、清潔で明るい空間となっている。トイレには消臭剤・芳香剤などを使用し臭気対策を行っており、トイレ内の手すりにはケガ防止用のゴムを付け、安全対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのレイアウトを工夫し、一人で過ごせる場所を確保出来るようにしている。また、利用者ごとに落ち着く場所を把握している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真を飾ったり、好きな物を置いたりして、居心地の良い空間づくりに努めている。希望によりテレビを置いて馴染みの空間作りを行っている。	居室には入居者愛用の化粧品や馴染みの備品、テレビ等の持ち込みのほか、必要な方には家具調のポータブルトイレ等を準備している。入居者を支援する上で家具類等の移動が必要となった場合は家族にも説明し、同意を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには張り紙をして排便の確認や安全確認の為にNSコールを押して頂いている。使用物には名前を書いて自身が選べるようにしている。		